連載「情報科学・工学，私はこう考える」の編集にあたって

井　宮　　淳†

情報処理学会も創立から 30 余年が過ぎ，人間でいえば，1 世代が成熟し次の世代を育てる時期に入ってます．この第 2 世代が次の世紀へと続く第 3 世代を育てることになります．そこで，第 2 世代として今後の情報処理学会の活動をもりたてていく若い世代の研究者の自由な意見を掲載することを企画しました．

今月号から何号かにわたって毎号 2 人ずつ，情報科学・工学に対する自分の考え方，現在取り組んでいる分野のおもしろさ，情報処理学会・学会誌に関する意見，若い目を通した将来の展望などを自由に述べていただきます．意見を述べていただく方々は，大学院博士課程に在学中あるいは学部卒業後 4 年程度の研究者です．ちょうど，情報処理学会の創世期に生まれた方々です．

彼らの育った時代には，テレビや映画では計算機やロボットを扱った物語が当たり前のように上映されていました．特に特殊撮影技術(SFX)による映像表現をとおして，学会員の方々が日夜その完成を目指して研究に取り組んでいる装置や機械をまるですでにこの世に存在するかのように擬似経験してきました．また教育の面では，いくつかの大学に情報工学科，情報科学科などの名称の学科が創設され，計算機に関する科学・工学が教育システムとして確立された時代でもあります．

このように情報科学・工学のプロの道を選ぶ以前から 20 年以上に渡って知らず知らずのうちに計算機とともに育って来た方々は，プロの集団としての情報処理学会やプロの機関誌である情報処理学会誌に対してどのような意見を持っているのでしょうか．また，プロとしてどのような立場で研究に取り組んでいるのでしょうか．

連載の中には，感傷的に幼児体験を振り返った記事があります．まじめに自分の研究について語った記事があります．SF のショートショートのような創作があります．メディアとしての情報処理学会のあり方への提言があります．我国の情報科学・工学の基礎を切り開いてきた第 1 世代の研究者の方々にとってはいますぐ読んで役に立つ記事ばかりではないかもしれません．しかし，若者の理想や意見としていますぐ役に立たなくても，いつか常識となることやその芽が連載の中にきっとあるはずです．しばらくの間，毎月 2 人の若者の意見に謙虚に耳を傾けていただきたいと思います．

意見を述べていただく研究者の方々の環境に目を移すと，各研究会を中心に若手の会，若手中心のセミナが年 1 回ほど開催されています．そして，研究会を中心に特定分野の中では若い研究者がどのような思想のもとで情報科学・工学の研究に取り組んでいるかをお互いに知る機会があります．最近では直に会って話さなくても，電子メールを利用して，限られた分野の研究者の間では，意志の疎通が親密に図られています．しかし，若い間に自分とは違った分野の同世代の研究者の考え方に耳を傾ける機会はあまりないと思います．この連載を通じて狭い分野に閉じ込もりがちな日本の若手研究者の目が外に向かって広がれば幸いです．

意見を述べていただく方々は，平成 3 年度の各研究会に推薦の依頼をいたしました．活発な研究活動の時間を裂いてこの企画のために執筆者を推薦いただいた各研究会の主査，幹事，研究連絡委員の方にこの場を借りてお礼を述べさせていただきます．

（平成 4 年 3 月 2 日）

† 千葉大学工学部情報工学科